

会議録（案）

会議の名称	第5回総合計画審議会
開催日時	令和8年1月15日(木) 午前10時00分から午前11時00分まで
開催場所	和泉市役所別館3階 3-1・3-2会議室
出席者	<p>[委員(敬称略)] (会長)水上 啓吾 (委員)山本 秀明、浜田 千秋、森 久往、坂本 健治、飯阪 光典、 坂上宏行、合田 研吾、定 孝昌、上西 恵子、佐藤 正浩、永田 就三、合田 耕三、冢瀬 徳夫、武石 英士、神谷 雅之、木口 祥孝、柳 伸之介 (欠席)辻本 法子(副会長)、赤木 賢雄、吉水 智紀</p> <p>[事務局] 前田市長公室長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、田嶋政策・資産マネジメント担当課長、奥山総括主幹、中総括主査、江口主査、岸尾主任、尾郷市長公室次長、左海財政課長、有限責任監査法人トーマツ 黒山</p>
会議の議題	1. 開会 2. パブリックコメントの結果について 3. 国の総合戦略を踏まえた本市総合戦略の修正について 4. 答申(案)について 5. その他
会議の要旨	・パブリックコメントで寄せられた意見に対する事務局の考えを示し、意見交換を行った。 ・国の総合戦略の動向を踏まえた修正の確認を行った。 ・答申(案)に対する意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会議録の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
その他の必要事項	傍聴者 1名

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

	<p>(事務局【政策企画室】から、資料の確認、出席者の確認、会議の成立について案内を行った)</p>
水上会長	<p>【1. 開会】</p> <p>○本日は、前回までの審議で一定の議論を終えた総合計画、総合戦略について、パブリックコメントを実施したが、その内容や市の考え方についてご意見をいただきたい。また、時間が許せば、これまでの議論を踏まえた審議会の答申案についても意見をいただきたい。</p>
水上会長	<p>【2. パブリックコメントの結果について】</p> <p>○まずは資料1について事務局より説明いただきたい。</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料1に基づき説明を行った)</p>
坂本委員	<p>○パブリックコメントとして5件の意見が寄せられたとのことだが、この件数が多いか少ないかは火を見るより明らかである。パブリックコメントの重要性を理解していることは承知しているが、この件数では、広く市民から意見を募ったとは言えない。どうすれば多くの意見を得られるのか、何が問題で意見を得られていないのかを検討いただかないと、パブリックコメントを実施することが目的で、結果は気にしないという姿勢と捉えられる可能性がある。そうならないように、意見が少ないことの原因と改善案、意見数の目標などを検討いただきたい。</p>
山本委員	<p>○意見1の「ショッピングモール設立」に対する市の考え方として、商業施設の出店は民間事業者が判断するものと言い切っているが、後段にもあるように、まちづくりの観点において、有名企業や商業施設を積極的に誘致することも行政の守備範囲であると考え。そのような認識を持って施策に取り組んでいただきたい。</p>
事務局	<p>○ご指摘を踏まえ、市の考え方の表現を改める。</p> <p>【2. 国の総合戦略を踏まえた本市総合戦略の修正について】</p> <p>○続いて資料2、3について事務局から説明いただきたい。</p> <p>(事務局【政策企画室】から、資料2、3に基づき説明を行った)</p>
神谷委員	<p>○資料2に記載されている、令和7年6月に閣議決定された地方創生2.0で示された国の「目指す姿」のうち、「新しい日本・楽しい日本」という項目について、資料3では、「選ばれる地方」という記載になっているが、正しいのか。</p>
事務局	<p>○ご指摘の件については、地方創生2.0では「新しい日本・楽しい日本」となっている</p>

	<p>が、令和7年12月に閣議決定・公表された「地方創生に関する総合戦略」及び「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」では、当該項目に対応する箇所が「選ばれる地方」となっており、手引きでは具体的な対応関係が示されていないところである。市としては、交付金獲得のために作成する地方版総合戦略の策定の手引きの中で採用されている後者の内容を採用したところである。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>○事務局の説明内容から、補助金獲得のために総合戦略を策定し、項目を作るという認識を持っているように思われるが、論理が逆で、和泉市がすべきことを検討した上で、国の補助制度に合致するものについては補助金の獲得を検討する、という考え方が正しいのではないか。</p> <p>また、国はあくまで地方創生の指針を打ち出しているに過ぎない。必ずこの手引きの内容に準じなければならないということが記載されているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>○手引きでは、必ず手引きの内容に準じなければならないなどの記載はなく、手引きの中でも、各自治体が地方創生を目指すにあたって、市としてどのような方向性とするかを検討しながら策定することが望ましいと記載されている。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>○そのとおりであり、まずは自治体が方向性を示すべきであり、国はそういった自治体の積極的な考えをバックアップするという姿勢である。事務局の説明では、補助金を得るために国の方針に合わせにいくという考えになっており、補助金のことしか考えていない。事務局の説明は理解できない。和泉市が作った計画を土台として、和泉市と国の考え方が合っているところを示していくべきである。国の方針とはいえ、和泉市にとって合わない部分を合わせにいくことはすべきでないのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>○今回、総合計画、創発プラン、総合戦略の3つの計画を策定している。総合計画が市の最上位計画であり、創発プランでそれを事業レベルや予算レベルまで具体化し落とし込んでいる。市としては、総合計画と創発プランが市の目指す方向性を示す計画であると認識している。その上で、昨今の厳しい財政状況においては、市の目指す方向性の実現のための資金獲得は大きな課題であり、市のめざすもののうち国のバックアップを受けられるものについては積極的に交付金を獲得していきたいと考えている。</p> <p>その上で、地方版総合戦略に関しては、総合計画、創発プランを国の方向性と合致させて、施策実行のための交付金を獲得することを目的として策定するものと位置づけている。総合戦略で定める施策は時勢に合わせて適宜修正していくことになるが、どのような方向に動いたとしても、市民サービスへ還元していくために、どんな場合であっても、市の施策が国の方針と合致しているということを示す必要があると考えている。</p> <p>委員ご指摘の、補助金のことしか考えていないという点については、総合戦略は補助金獲得のために策定する性質のものであり、市が目指す方向性は総合計画及び創発プランで示していきたいと考えている。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>○私の考え方と全く合わない。市民にとって必要であるが予算の観点から実施できていない事業に対して、不足分を補助金で充足するという考え方が前もってあるのならよいが、今回も、例えば物価高騰対策として他自治体でもされているプレミアム商品券の発行を行うなど、補助金があるからそれを何に使うかを考えるという逆の考え方となっている。物価高騰の中で市民に対して何が必要なのかというのを前もって考えたうえで、国</p>

	<p>の方針が決まれば、その補助金を取りに行くという考え方が正しいはずである。国の補助金も税金であり、補助金を受けることを前提に何をするかを考えるのは改めてもらいたい。</p> <p>もう一点。和泉市は事業のスクラップを本当にしているのか。財源不足などと言っているが、財源を捻出するのであれば計画を立てて事業のスクラップをすることが必要である。それをしてこないで国からの補助金ありきで物事を考えているのが間違っている。お金ありきで物事を考えないでいただきたい。</p>
水上会長	<p>○委員の指摘は非常に重要である一方で、事務局の考えも理解できるところである。1990年代から地方分権が始まり、ひと段落ついて現在であるが、全国的に財政状況が苦しい中で、地方財政の硬直化が進み、自由に使うことができる予算が少なく、その予算も9割ほどはあらかじめ用途が決まってしまう。自治体で新たに事業を行おうと思っても予算を使えない状況というのがどの自治体でもある。事務局から説明のあった交付金は、国が用意して、自治体で計画を立てて使うものとして交付されるものである。その計画も、これまでの審議の中で、和泉市の特性やこれまでの課題を踏まえて作られたものであるが、考え方としては両面あり、和泉市がめざす方向性の全てに補助金を使うことができるというわけでもないため、ある程度は国の方向性とのすり合わせを行わなければならないというのが、どの自治体も抱えている財政面の課題である。委員のご意見もそのとおりであり、一方で事務局の回答がこのような形になることもよくわかる。</p>
柳委員	<p>○地方分権には難しい課題がありそうだと議論を興味深く聞かせていただいた。水上会長の説明で理解を深めることもできた。坂本委員と事務局の両意見とも、和泉市のことを考えてという点では共通していると思う。少なくとも事務局の説明の仕方は変えた方がいいだろう。神谷委員の質問にもあった「選ばれる地方」という書き方では、「国の気に入る施策を立てて交付金を獲得する」というニュアンスになってしまう。</p>
前田市長公室長	<p>○総合戦略に関しては、補助金獲得のために策定しているということは先ほど説明があったとおりだが、市として取り組まなければならない施策は総合計画、創発プラン、各種個別計画にて、毎年の予算配分を決定し、その中では国の補助金も効果的に獲得したいと考えている。</p> <p>この度の修正について、政権の考えに寄せているというご指摘もあったが、手引きとして記載されている内容に合わせているものであり、こういった項目を設けることで今後の市の施策が左右されることはないと考えている。市が必要と考えているどの事業についても、国の方針に合致するということを示す狙いである。</p> <p>先ほど、スクラップ・ビルドに関するご指摘もあり、事業のスクラップも難しいところではあるが、創発プランにおいて記載しているとおり、引き続き効率的な財政運営を進めていきたい。</p>
水上会長	<p>【4. 答申(案)について】</p> <p>○続いて資料4について事務局から説明いただきたい。</p> <p style="text-align: center;">(事務局【政策企画室】から、資料4に基づき説明を行った)</p>

山本委員	<p>○将来都市像のキャッチフレーズについては本審議会で多くの議論があったところであり、当方からも意見させていただいたが、審議時間の兼ね合いもあり、修正せずということになった。そういった背景を附帯意見として記載している点は評価する。一方で、やはり、市長がよく発言している「和泉発日本」という点では整合性が取れないと今でも感じている。</p> <p>1点、提案として、「総括」の計画の進行管理の項目に、「財政の健全化を維持しつつ」といった内容を盛り込んでどうか。財政健全化は和泉市にとっても重要な観点である。</p>
事務局	○ご指摘のとおりであり、そのように文言を追加する。
水上会長	<p>○本日、当初予定を前倒して答申(案)についての議論をいただき、一部文言修正を除き異議はないようであるため、こちらの修正は会長一任とさせていただく。</p> <p>次回の審議会で議論いただく予定であった事項の議論が完了したため、本日の会をもって、審議会を終了することとするが、意見はあるか。</p> <p style="text-align: center;">(一同異議なし)</p>
水上会長	○では、会長として責任をもって市長へと答申させていただく。
水上会長	<p>【5. その他】</p> <p>○以上をもって審議会を終了とするが、最後に簡単に感想を申し上げる。昨年10月に審議を開始し、5回にわたる審議及び審議会の合間にもメール等でご意見をいただきましたこと感謝申し上げます。和泉市をよくしたいという想いのもと、皆様から有意義なご意見をいただきましたと考えている。今回の審議や計画の修正が和泉市の発展に繋がればと思う。和泉市におかれては、審議会の議論をもとに、和泉市の優位性や地域特性、時代潮流を踏まえた政策を展開していただければと思う。最後になるが、議事進行に際し、皆様のご助力をいただき感謝申し上げます。</p>
前田市長公室長	<p>○閉会に際し一言挨拶申し上げます。この度は、委員の皆様におかれましては、5回にわたる会議へ参加いただきありがとうございました。また、会議の合間にご意見をいただくなど、タイトなスケジュールにも関わらず、多数のご意見をいただきましたことを感謝申し上げます。おかげさまで、多様な見地からの活発な議論をいただき、総合計画案及び総合戦略案をふさわしい形に修正できたと感じているほか、修正に至らない部分でも、今後の進め方についての我々の礎ができたと考えています。いただいた意見については、今後の計画策定へ反映させ、市民サービスの充実や市の持続的な発展を進めてまいります。最後になりますが、皆様におかれましては、今後とも市政に対してのご意見やご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。閉会に当たっての挨拶とさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>